

2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020年3月31日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	教授	氏名	向山徹
研究課題	閑谷学校の歴史的・文化的価値に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	向山 徹	デザイン学部・教授	建築意匠論	統括・調査・意匠的考察	
	分担者	河田 智成 衛藤 翔平	広島工業大学・教授 衛藤建築設計室	建築史 建築設計	歴史的考察 資料作成	
研究実績の概要	<p>年月を経てさらに輝きを増しつつある閑谷学校の本源は、施設を取り囲む谷あいの静かな環境と、普請奉行津田永忠による、細心の注意を払いながら最小限の手を加えられた土木・水利技術、そして同じ視点で築造された建築構造と技術が根底にあるものと考えられる。特に、雨水を処理する為の様々な排水設備（石堀・石垣・水路・暗渠）が遺構として残されているが、それら物理的境界が構成する諸領域が、天から落ちる雨水の流れが介在することにより、境界を緩やかに横断する空間的な領域の変化を生みだし、さらに儒教的な教育の場としての施設配置や施設レベル差の秩序が加わることによって、この場を今でも生きた学びの場として存在せしめていることを、環境的・空間的・歴史的観点から明らかにすることを研究の目的とする。</p> <p>今回は、構内の各地盤のレベル差、諸領域間の物理的な境界としての水路・石組み形状などの構築物・形状を、現地調査および調査報告書をもとに3Dモデリングにより、3次元に可視化した。実際には見ることができない抽象化された周辺地形と構内を境界付ける石組みなどの水利のための物理的境界の全容をとらえることができた。また、聞き取り調査より、構内の水の流れをより詳細につかむことができ、自然と人工物の折り合いをつける普請奉行津田永忠の手法の一端を捉えることができた。また、文献調査の結果、岡山藩の治水の歴史をたどることにより、津田永忠による土木技術の集積が閑谷学校の豊かなランドスケープを形成していることを確認した。今後は引き続き、より詳細な実測調査とヒアリングを重ね、閑谷の空間領域構造の実相に迫ってゆく。</p>					

※ 次ページに続く

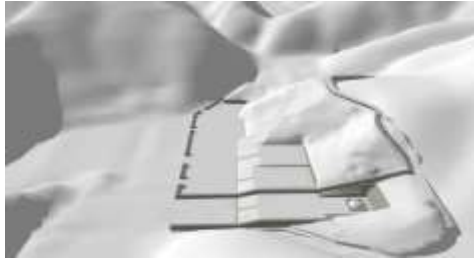
成果資料目録



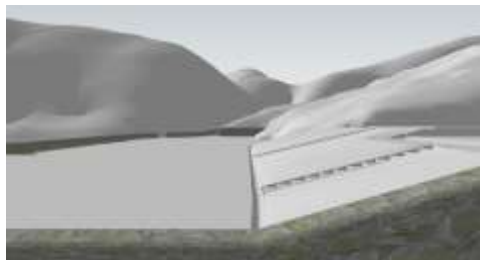
全景俯瞰 地形と石組みの関係



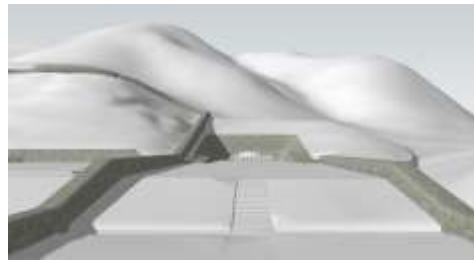
北東見下ろし 山尾根に沿って石塀が巡り、
全領域を境界付ける



東側見下ろし 領域を境界付ける石塀・石垣
石積・水路の地形との関係



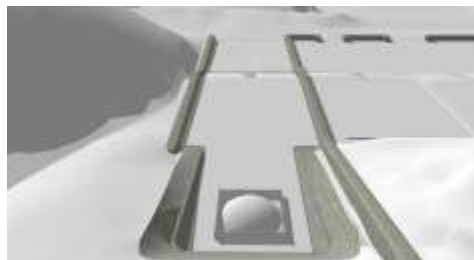
椿山からの広庭方向への眺望 元の岩盤を切り
盛りしながら新たな領域を形成している



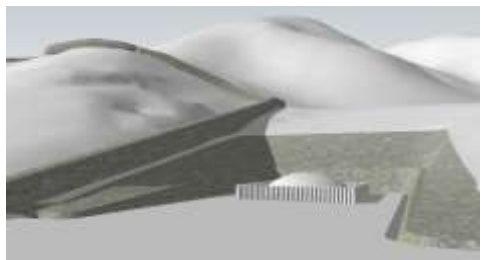
椿山南から見上げ 広庭とレベルを合わ
せながらも石塀により境界付けられる



椿山南東から見上げ 広庭と境界付けら
れた椿山に水路を通じて雨水が横断する



椿山北側見下ろし 広庭⇒石塀⇒椿山横断⇒
石塀内を浸透⇒東側河川へと雨水が流れる



傾斜した地形内に領域をつくる構内共通の作
法が、より象徴化された形で整えられている